

CPC含有口腔製剤による 新型コロナウイルス感染制御に期待。

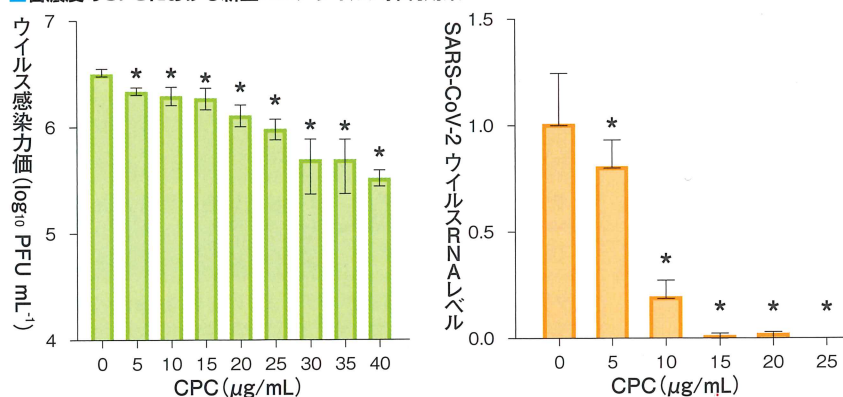
ワクチンや治療薬が普及した現在も多くの感染者を生み出し、医療逼迫や社会経済活動の停滞を引き起こしている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)。感染・重症化予防には、口腔内ウイルス(SARS-CoV-2)量を減弱させることが重要である。

北海道大学大学院歯学研究院の樋田京子教授、博士課程

の武田遼氏らの研究グループが、市販の洗口液等に使用されている殺菌成分であるセチルピリジニウム塩化物水和物(CPC)が、新型コロナウイルスに対して抗ウイルス効果があることを発見した。これまでのCPCに関する研究では、250 μg/mL以上の高濃度で新型コロナウイルスエンベロープの破壊による、感染症の抑制が報告されていたが、日本の一般的な洗口液中に使用される濃度50 μg/mL以下においては、新型コロナウイルスに対する効果は不明だった。

研究の結果、50 μg/

■各濃度のCPCにおける新型コロナウイルス抑制効果



mLにおいても、新型コロナウイルスに対しウイルス粒子の形態変化をもたらし不活性化する感染性抑制効果確認。唾液中でも同様に感染性抑制効果を示すことも分かった。低濃度のCPCが徐放されるような製剤が開発されれば、新型コロナウイルスの感染、重症化予防が期待される。

論文名:Antiviral effect of Cetylpyridinium chloride in mouthwash on SARS-CoV-2 (SARS-CoV-2に対する洗口液成分セチルピリジニウム塩化物水和物の抗ウイルス効果)
雑誌名:Scientific Reports
DOI:10.1038/s41598-022-18367-6

乳幼児期の良質な睡眠は、 歯ぎしり癖の回避に繋がる!?

歯ぎしりは物を食べていない状況での反復的な咀嚼運動で、睡眠中に起こるものは睡眠時ブラキシズムと呼ばれ、歯のすり減りや顎関節症の原因になるとも言われている。また、歯ぎしりと睡眠障害との強い相関が知られているが、乳幼児期の睡眠習慣が将来的な歯ぎしり癖に影響するという研究結果が発表された。東北大学の土谷忍助教らの研究グループは、環境省が実施しているエコチル調査の90、148名を対象に、乳幼児期の睡眠時間(1ヶ月、6ヶ月、1歳、1歳半、3歳時)と歯ぎしり癖の有無(2歳時、4歳時点)の関連について解析。

その結果、新生児期(生後1ヶ月)の睡眠時間が長いほど、歯ぎしり癖を持つ子どもの割合は減少。この傾向は6ヶ月時点でも確認されたが、3歳時点では認められなかった。特に、夜間の睡眠時間が歯ぎしり癖の発生と強く関連しており、2歳と4歳時点の両方で歯ぎしり癖がある子どもではその傾向がより顕著に表れた。

新生児期の良質な睡眠習慣は、将来的な問題に繋がる歯ぎしり癖のリスク回避に効果的である可能性を示唆しており、「寝る子は育つ」の言葉通り、健康やかな口腔発育、ひいては全身の健康に繋がるかもしれない。

